

2010. 8. 22 聖別会

IMMANUEL

インマヌエル
中目黒キリスト教会
聖別会マンスリー



2010年

<ジョン・オズワルト著 『聖』を生きる人々>

第8章「新しい契約と聖なる生活」 a

⑥「罪を犯すな (!?)」

テキスト：「罪に対して死んだ私達がどうして尚もその中に生きていられるでしょう」（ローマ 6:2）

A. 旧約と新約の共通性

1. 私たちは罪の奴隷であり、自分で自分を救うことはできない
2. 聖なる神との交わりに回復されるためには、恵にすぎる以外にはない
3. 回復された後には、神に倣って生きる（罪を犯しながら、聖い神と交わることはできない）
4. 罪に打ち勝つ道は聖霊の満たしによる

B. ローマ書 6章の強調

1-5章の要点：罪人が義とされるのは、キリストの贖いへの信仰によってだけである。

→罪に関する次のような質問が生まれる：[カッコは答え]

1. 罪に負ける生活を送る方がより多く恵を頂く？
[とんでもない！私達が救われたのは、神のイメージに回復されるためなのだ]
2. 罪を犯さない生き方などできるか？
[聖い生活は神の命令であるし、神は無茶な命令を与えなさるはずはない。キリストと一体となった私達は、罪について死んで、新しい聖い命に甦ったはずだ]

3. 罪を犯したくないけれど、してしまう？
[罪と義とは二者択一の主人であり、私達は自分を義の器として神に捧げたものだ。そうならば、罪を犯し続ける筈がない。また、私達はキリストの花嫁だ。花嫁らしい服装を花婿が用意しているのに、それを断るのは失礼この上ない]
4. 罪は、そんなに恐ろしいものか？
[罪の報酬は死だから、私たちは罪を継続してよい訳が無い(23節)]

C. 竿代の補足

1. 罪を犯さない生活なんて無味乾燥？
[いいえ。義と平安と聖霊による喜びは、豊かな生涯]
2. 罪を犯し続け、悔い改め続ける人の方が謙遜？
[罪の本質は、神への反逆。反逆者が謙遜でありえようか]
3. 罪を犯し得ないほどきよめられるのか？
[罪の不可能性は聖書の教えではない。しかし、罪を犯さない可能性は聖書の道]

おわりに

6:11の信仰に立とう

“Holiness unto the Lord” is our watchword and song;
“Holiness unto the Lord” as we’ re marching along.
Sing it, shout it, loud and long;
“Holiness unto the Lord” now and forever.